

第5回北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名：第5回北杜市立小中学校適正規模等審議会
2. 日時：令和2年12月17日（木）午前10時00分～12時00分
3. 場所：須玉ふれあい館2階会議室1・2
4. 出席者：
（委員）清水一彦・川村めぐみ・清水政英・藤原廣吉・清水永一・丸茂 浩・三井正三・輿石長時・坂本美樹・輿石義彦・清水 潤・細川英雄・三井紀子

（事務局）上村市長・中山教育部長・堀内教育総務課長・天池総務担当リーダー・安部施設担当リーダー・白倉学校教育担当リーダー・総務担当柳澤
5. 議事
（1）小中学校適正規模等の検討に係るワークショップの概要と検討の参考資料について
（2）第1回ワークショップについて
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：4人
8. 議事録署名委員：坂本美樹、輿石義彦

議 題

- （1）小中学校適正規模等の検討に係るワークショップの概要と検討の参考資料について

（会 長） それでは事務局に説明を求める。

（事務局） （事務局より資料を用いて説明）

（会 長） ただ今、事務局より資料の説明があったが、ワークショップ参加者の身になれば、ワークショップ資料に加えて一枚物の資料があると、全体の流れが把握できるので、検討してほしい。今の説明から言うと、施設分離型は選択肢から除外するという結論が見えてくるが、そのような解釈でよいか。

（事務局） シミュレーションでは、施設分離型は、お金の面で3.3%の持

続可能な水準がクリアできないという説明になっているが、そのような状況を踏まえて、審議会やワークショップの御意見をいただきながら、審議会で審議していただきたい。

(会 長) まだ今の段階では断定していない、議論の対象となるということで進めていく。また、国が言っている 35 人学級が実現すれば学級数が修正されるため、今後、この資料に含まれていない変化が起こることも考えられる。

ワーキンググループから何か補足はあるか。

(委 員) 特に補足はない。なぜ、現状維持、水平統合、垂直統合の 3 つの選択肢が提示されているかについて、共通理解ができれば良いと考えている。

(委 員) お子さんを持つ保護者にとっては、部活動についての具体的な内容が盛り込まれていないことについて、不満を感じる場合もあるのではないかと感じている。その他については、現状これを基に深く掘り下げればよい。

(会 長) ワークショップの構成は決まったか。

(事務局) ワークショップの参加者の構成は、各町とも 20 人前後で地域委員の正副会長、区長会正副会長、小中学校 PTA 正副会長、保育園保護者会正副会長、公募各町 3 名程度で構成する。また、子ども達の意見は別途機会を検討している。

(委 員) 新市長の公約では、子どもの数を 10 年後に倍にするとされている。実現した場合、子どもが減るという前提で進んでいるこの検討が生きるのか心配している。

(委 員) 学校の統廃合を考える際に、経済的側面と教育的側面とがあるが、この資料では教育的側面で子どもの意見等が反映されていない。14 ページに先生方のヒアリング結果があるが、これは学校規模によって変わる可能性があり、客観的資料が少ないと感じるが、現状ではここまででよいと思う。

- (会 長) 全体としては、ワーキンググループでの協議の結果が反映された資料になっていると言える。
- (事務局) 今後、子ども達の意見を聞く計画を立てている。また、ワークショップでの意見や子ども達から聞いた意見なども踏まえながら、必要に応じて随時、資料を充実していきたいと考えている。
- (会 長) 小中一体型では、校長は1人となるのか。
- (事務局) (義務教育学校では) 1人となる。
- (委 員) この資料は、良く整理されていると思う。教師のヒアリングがされているが、一番大事なのは、子ども達の教育的効果であり、統合した場合の移動距離など総合的に経費よりも教育的側面を重視して欲しい。メリット・デメリットの整理の資料で、教員負担の増大という項目について、違和感がある。小規模校だと事務分掌が多いというのは確かだが、水平統合で負担が軽減されるというのは言い過ぎなのではないか。負担というのは主観的であって、軽減されるとは一概に言えない。規模が大きくなれば対応する生徒・保護者が増えるので、担当する校務分掌は減るが、1つ1つの比重は大きくなるので、負担が軽減するとは言えない。
- (事務局) 今の意見を踏まえて、負担が減るという表現を、校務分掌数が減るという方向で修正したい。校長先生方のご意見を伺いながら修正させていただく。
- (委 員) 水平統合の4校程度、1～2校程度というのはイメージができるが、垂直統合の施設一体型、施設分離型というのはイメージしにくいのではと感じた。
- (委 員) 補足だが、垂直統合は施設一体型と施設分離型に分かれているが、当面は施設分離型だが、ゆくゆくは一体型にするということも考えられる。また、校長が1人になって9年間の義務教育を行う「義務教育学校」については、施設一体型・施設分離型

のどちらか、自治体が運営方法を決めて文科省に申請することは可能であり、この辺は流動的な状況である。2006年の中央教育審議会でも義務教育学校・小中一貫校という提案が出ており、10年後に制度化され、現在300校以上あって実績もあり、全国的な流れと言ってもよいと思う。

(会 長) 元々、中高一貫校も3パターンあり、義務教育学校も同様である。北杜市立甲陵高校は中高一貫だが、運営が難しいという話を聞いた。垂直統合を選択した場合には、中学校を卒業した後も視野に入れて連携することが必要である。また、今の時代は、社会の多様化の時代であり、時代にどう対応するかが大事である。

(委 員) 良くまとまった資料で、ワークショップの参加者がそれぞれイメージして色んな意見がでると思う。

(事務局) 小中一貫校の施設一体型、施設分離型がイメージできないという意見については、参考資料に先行事例を載せ、ワークショップの中で事例紹介しながらイメージを持ってもらえるようにしたい。追加資料については、ワーキンググループにおいて確認していただきたい。

(委 員) 難しい検討をしないとイケないが、早く方向性を出すことが重要である。また、保育園、小学校の子どもを持つ保護者に意見を聞くときに、統合になったらどうなるという説明をすべき。

(会 長) 議論を停滞させず進めていくことが重要である。第1回ワークショップの後も計画に沿って検討を進め、答申を取りまとめていくことになる。

(委 員) 専門的知識の無い保護者には理解しきれない心配がある。ワークショップではその場で説明してくれる人が付けばありがたい。

(事務局) 30ページある資料を20分で説明するのは難しいので、資料は参加者に事前に配布し、読んできてもらえるようにする。また、

ワークショップでは、テーブルごとに付くファシリテーターや市職員とのやり取りの中で理解を深めるようにしたい。

(委 員) 資料を事前に頂き、見てきたが、良くできている。しかし、新市長の公約が実現し、子ども達が倍になったらどうなるのだろうかと感じた。

(委 員) 答申を出しても、市長公約との擦り合わせが必要だと感じる。

(会 長) 答申でも、そこには触れなければならないが、基本的には、この資料のシミュレーションを土台にした答申を行うスタンスである。

(委 員) 令和 14 年までの資料となっているが、絵に描いた餅にならないように、水平統合と垂直統合を含めた形での案も出した方がよい。10年で2倍は不可能だと思う。もっと柔軟に資料を作成してほしいと思う。

(会 長) 10年先は予測できないが、放っておくことも出来ない。ある程度方向性が出てくれば、具体的なシミュレーションを議論できると思う。そういう中で、目指すべき方向性をブレることなく、提言していけばよいと思っている。一通り委員の意見を伺った。

(2) 第1回ワークショップについて

(会 長) それでは、事務局に説明を求める。

(事務局) (事務局より資料を用いて説明)

(会 長) 今の説明は、先程の事務局の資料説明の後で行うのか。

(事務局) 資料説明のあと、ワークの中で今の説明を全体の振り返りという中で説明したほうが理解しやすいと考えており、審議委員の意見を伺いたい。

(会 長) グループ分けはどうするのか。

- (事務局) 1テーブル7名で20名なので3テーブルを予定している。最初に、ワークショップの進め方とともに全体的な説明を行い、その後、個々のグループで意見交換を行う。
- (会長) 今の説明の仕方だと誤解される可能性がある。適正規模について、垂直か水平かを選択するとか、6つのタイプのどれを取るとか、選択を前提とした意見交換に陥る。実際には、組み合わせても良いし、ある学校については垂直統合、他は水平統合という選択もあってもよい。そのようなことが理解できないと思われる。
- (事務局) ワークは3回あり、1回目は様々な意見を聞くことが目的で、選択するのは目的でない。
- (会長) 水平統合の4校案は、平成29年度までの検討で一度否定されている。現状維持であれば、そもそも審議会をする必要がない。ワークショップの説明では、垂直統合・水平統合とはどういうものかということ、きちんと理解していただくとよいと思う。他の委員はいかがか。
- (委員) 表中の「教員と生徒との距離」で、水平統合の4校案は、概ね現状が維持されるとされているが、この位置は垂直統合と水平統合の間にくるべきではないか。教員数85人が60人と減るので、現状維持とは言えない。
- (委員) 部活動について、国では数年後には中学校での部活動からある程度離れて、社会教育・社会体育の中で、地域全体で子ども達の文化的活動やスポーツを見ていくという動きがある。来年度から山梨県でも地域が選定されてモデル校が指定され、実践を経て各地域で検討していく事になる。北杜市での展開を考えると、移動距離、指導者の確保、社会全体の理解等の課題をクリアしなければいけない。国・県の動向を見ながら、統合とは別に議論していく問題だと考える。この部分についてはワークショップの中で、触れる必要があるのか疑問である。

- (会 長) 部活動については、参考事例が示されている。国・県の動きには触れても良いのではないか。一方で、審議会とは切り離して議論する必要がある大きな問題でもあると思う。
次に、ワークショップの進め方について説明をお願いします。
- (事務局) (事務局より資料を用いて説明)
- (会 長) ワークショップで出た意見を基に審議会で方向性を結論付けるので、役割は重要である。
- (事務局) 今後のスケジュールについて、新年1月下旬に第1回ワークショップ、第6回審議会は2月、第7回審議会は3月に予定している。次回第6回審議会では、Webによる先行事例の視察を予定している。視察先は、垂直統合と水平統合を組み合わせた事例ということで長野県佐久穂町を想定している。
ワークショップの開催の是非については、今後のコロナの感染状況を確認しながら、清水会長にもご相談させていただき、実施の判断をさせていただきたい。
- (会 長) 視察は審議会として開催するのか。
- (事務局) 審議会の中で開催したい。
- (会 長) 以上で、議事を終了する。

終了